

特別講演

原発事故から13年

福島原発作業員を追い続けて



東京新聞(中日新聞東京本社) 福島特別支局記者

片山 夏子 Natsuko Katayama

化粧品会社の営業、ニート、埼玉新聞に。埼玉新聞で、出生前診断の連載「いのち生まれるときに」でアップジョン医学記事賞の特別賞受賞。その後、中日新聞社に入社後、臓器移植問題や原発作業員の労災の問題などを取材。東日本大震災翌日から原発事故の取材し、2011年8月から作業員の日常や家族への思いなどを綴った「ふくしま作業員日誌」を連載。同連載が「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」大賞。連載に作業員1人1人の9年間を加筆した書籍「ふくしま原発作業員日誌～イチエフの真実、9年間の記録～」(朝日新聞出版)が講談社本田靖春ノンフィクション賞と早稲田ジャーナリズム大賞の奨励賞など3賞受賞。

2024年

3/23(土) 13:25～14:25

会場 東京国際フォーラム 4F ホールC(第1会場)

座長 谷口 修一 (国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 病院長)

演者 片山 夏子 (東京新聞 福島特別支局)



著書 『ふくしま原発作業員日誌 ～イチエフの真実、9年間の記録～』

著者 片山 夏子

講談社本田靖春ノンフィクション賞

「脱原発社会をめざす文学者の会」(加賀乙彦会長)ノンフィクション部門文学賞

早稲田ジャーナリズム大賞の奨励賞など3賞受賞。

大宅壮一ノンフィクション賞の最終選考ノミネート作品。

講談社第12代週刊現代編集長 出樋一親氏のコメント

大したものです。文藝春秋社の大宅壮一ノンフィクション賞が有名ですが、講談社の賞も作品のテーマは勿論、取材の緻密さ、文章の確かさが問われます。凄いと思います。こんな人がいると、ホッとします。ノンフィクションも捨てたものではない。